

# 主な感染症について

病名	主な症状	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹(はしか)	38℃以上の高熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やに。熱が一時下がる頃、小斑点が頬粘膜に現れる。	発症前日から発疹出現後4日まで	解熱後3日してから
インフルエンザ	突然の高熱が3～4日間続く。全身にだるさや痛み(関節痛、筋肉痛、頭痛など)を伴う。のどの痛みや鼻みず、咳が続く。 <合併症>肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症	症状がある期間(発症前24時間から発病後3日程度が最も感染力が強い)	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで(幼児(乳幼児)にあつては、3日を経過するまで)
風疹(三日はしか)	発熱、発しん、リンパ節の腫れ。 <合併症>関節炎、まれに血小板減少性紫斑病、脳炎を発症することもある。	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘(水ぼうそう)	発しんが全身(頭部や口の中にも)に現れる。 <合併症>皮膚の細菌感染症、肺炎	発疹出現前2日から痂皮(かさぶた)形成まで	水ぼうがすべて痂皮(かさぶた)化してから
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱、耳の片側か両側に痛みを伴う腫れ。	耳下腺膨張前2日から膨張後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核			医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱(プール熱)	39℃前後の発熱、喉の炎症・痛み、頭痛、食欲不振が3～7日続く。眼の症状には結膜の充血、涙が多くなる、まぶしがる、眼やになど。	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消失後2日経過してから
流行性角結膜炎(はやり目)	涙が止まらない、結膜の充血、眼やに、耳前リンパ節の腫れ。	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いので結膜炎の症状が消失してから
百日せき	風邪に似た症状からはじまる。次第に咳が強くなり、1～2週でコンコンと咳き込んだ後にヒューという笛を吹くような音を立て息を吸うような咳をする。咳は夜間に悪化する。発熱がある場合は合併症の疑いも。 <合併症>肺炎、脳症	抗菌薬を服用しない場合、せき出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症(O157・O111・O26等)	激しい腹痛、何回も水のような便をする、また血便。 <合併症>溶血性尿毒症症候群、脳症(3歳以下での発症が多い)		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	結膜からの出血。	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	水ぶくれ、神経痛(かゆみ)		医師により感染の恐れがないと認めるまで
溶連菌感染症	突然の発熱、喉の痛み、しばしば嘔吐を伴う。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。しつこい咳が3～4週間続く場合もある。中耳炎、鼓膜炎、発疹を伴うこともある。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	水ぶくれのような発しんが口内粘膜及び手のひら、足の裏や甲に現れる。	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(りんご病)	軽いかぜ症状の後、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が現れる。	発疹出現前1週間	全身状態が良いこと
感染性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノウイルス)	吐き気・嘔吐、下痢(乳幼児は黄色より白っぽいことが多い)発熱。 <合併症>脱水症状、けいれん、脳症、肝炎	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	突然の高熱(1～3日続く)、喉の痛み、口の奥に水ぶくれや潰瘍ができる。 <合併症>熱性痙攣、脱水症状	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	発熱、鼻みず、咳、呼吸時に出るぜいぜい・ひゅうひゅうという音、呼吸困難 <合併症>細気管支炎、肺炎(乳児期早期)	呼吸器症状がある期間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹		水ぼうのある間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発疹	38℃以上の高熱(生まれて初めての発熱であることが多い)が3～4日間続いた後、解熱とともに体の中心部に鮮紅色の発しんが現れる。軟便になることがある。 <合併症>熱性痙攣、脳炎、肝炎、血小板減少性紫斑病等		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹(とびひ)	湿疹や虫刺され痕を掻いた部分が細菌感染を起こし、皮膚が剥けたり水ぶくれになったりする。かゆみを伴い、掻き傷部分が広がる。	湿潤な病巣(ジュクジュクした傷)がある間	皮疹が乾燥しているか、湿潤な病巣が覆ってから
伝染性軟属腫(水いぼ)	直径1～3mmの半球状盛り上がった発しんで、表面は平らで中心が凹んでいる。四肢、体幹等に数個～数十個ができることが多い。	いぼから浸出液が出ている間	いぼからの浸出液を覆ってから
アタマジラミ	乳幼児ではとくに症状を訴えないが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	シラミが付着している間	駆除対策を開始してから